

The background of the slide is a light gray gradient with several realistic water droplets of various sizes scattered across it. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

2021年広島修道大学 ひろしま協創中学校・高等学校 の学校改革

2021.4.1

＜学校改革の必要性＞

- 2015年度に法人合併し、2019年度に校名を変更するとともに男女共学校として新たに出発した本校は、「グローバル・イノベーション・リーダーの育成」を教育目標に掲げ、日々の教育活動を実践している。
- しかしながら、本校生徒が描く「グローバル・イノベーション・リーダー」像は、必ずしも明確ではなく抽象的なイメージに留まっている。
- 教員も教育目標の実現に向けて日々試行錯誤しているが、各教員の描く教育目標を実現している生徒の姿があいまいだったり、違っていたりする現実がある。
- 教員も生徒も教育目標を実現している生徒の姿を具体的にイメージでき、共有し、かつその実現に向けて日々取り組むことが求められる。
- 13歳、16歳人口そのものが減少し、少なくなる生徒を公立・私立高校で取り合う構図となっている現在、安定して生徒を確保し学校を存続させていくためには、「グローバル・イノベーション・リーダー」像を明確にするとともに、子供たちの教育に直接携わる教職員一人一人が生き生きと教育活動に取り組める環境を整えるという視点からの学校改革を断行していくことが必要である。

学校改革の概要

- 1_協創教育コンセプトの具体的明示
- 2_教職員研修の体系化及び具体的計画の策定
- 3_教職員の働き方の見直し
- 4_部活動の見直し
- 5_学校行事の在り方の見直し
- 6_広報活動の在り方の見直し
- 7_人事評価制度の導入

1_協創教育コンセプトの具体的明示

➤ 協創ルーブリック(学校ルーブリック)の作成及び評価

⇒「4つの力育成」の具体的方策を明確にするとともに、到達度を評価するための「協創ルーブリック」を作成する。また、これを踏まえた教科別の具体策及び「教科別ルーブリック」を作成し、評価を試みる。

➤ 探究科において、4つの力の育成を意識したプログラムを開発

⇒地域に密着した課題から生徒が4つの力(①探究型学力②協創する力③社会参画する力④自己実現する力)を意識して取り組むことができ、解決策を模索する中で、さらに深い根本的な問いを導き出すような思考(知識・理解思考→論理的思考→創造的思考)へと深化させながら実施できるプログラムを開発する。当面、探究科で実施する。

➤ GCP(グローバル・コンピテンス・プログラム)の導入・実施

⇒GCPを本校の教育目標を達成するための教科横断型の特色ある教育活動と位置付けて実施する。2021年度は、英語科が主担当として実施し、2022年度以降は、各教科でできること(役割)を整理し、可能な教科から順次担当する。

2_教職員研修の体系化及び具体的計画の策定

➤ 研修主任の配置

⇒新たに「研修主任」を配置し、研修の体系化及び具体的計画を策定

➤ 公開研究授業の継続的实施

⇒教務部に公開研究授業担当を配置

⇒授業評価ルーブリックの作成

➤ 日々の授業評価の実施

⇒外部からの評価者を選定し、実施可能な教科から順次実施

➤ 生徒による授業評価の実施検討

⇒目的を明確にし、生徒、教員双方が理解した上で実施

3_教職員の働き方の見直し

教職員の働き方を見直す上で重要な勤務時間終了後から退校するまでの在校時間の縮減策を講じる。

➤ 一斉退校日の設定

当面、原則毎月第3水曜日とし、毎週水曜日の一斉退校を目指す。

➤ 下校時間の見直し

18時30分完全下校を目指す。

当面、2021年度は、夏期(4月～10月)19時、冬期(11月～3月)18時30分完全下校とする。

(大会前など、やむを得ない場合は許可制とする。)

➤ 土曜日の休業

本校の生徒の状況や他の私立学校の動向を踏まえ、将来的に実施する方向で検討する。

なお、段階的な措置として、毎月の課業土曜日の一日を会議又は研修の時間に充てることを検討する。(その際、生徒は休業)

4_部活動の見直し

基本的考え方

部活動奨学生数の減少に見られるように、ひろしま協創中高における部活動の位置付けは、かつて部活動の成績により生徒が集まっていた鈴峯中高時代から大きく変化してきている。

一方で、部活動は生徒が中高を選択する際に重視する要素でもあることから、校地の移転によりグラウンドが狭くなったことや寮が廃止されたことなどの現状を踏まえた上で、部活動の充実を図っていく。(グラウンドの拡張や寮の復活は困難)

➤ 部活動顧問希望アンケートの実施

➤ 一斉退校日の設定

⇒当面、研修が行われる水曜日(原則第3水曜日)を一斉退校日となることに併せ、各部活動の休養日を水曜日に統一するよう調整を行う。

➤ 土日部活動完全休養日の設定

⇒土曜日及び日曜日のいずれかの一日、部活動を行わない日とする。
(大会など、やむを得ない場合は許可制とする。)

➤ 特殊業務手当額の見直し

⇒部活動指導業務のうち、生徒を引率して行う業務の手当額を引き上げるとともに、休日に行われる部活動指導業務に対する手当を新設する。

5_学校行事の在り方の見直し

学校行事の見直しについては、WGでのまとめをもとに、改めて教育活動全体を見直し、各行事の意義付けを明確にしながら次のとおり実施する。

なお、各行事の実施に際しては、生徒の自主的、実践的な活動の場となるよう配慮するとともに、十分な準備期間を設ける。

[1学期]

- ・遠足(4月)※名称の検討。行先は中高6か年を見据える。入学合宿(4月)
- ・ヤングアメリカンズ(6月)※2021年度は中止、文化祭(6月)ー3年生参加

[2学期]

- ・体育祭(9月)

[3学期]

- ・クラスマッチ(1月)、協創コンテスト[新設](3月)

協創コンテストとは、1年間の様々な学習活動の発表の場とし、個人、クラス、学年等の部門を設定する。生徒自治会が主導して開催し、優秀者(個人及び団体)を表彰する(協創賞を活用)カルタ大会は教科内で、弁論大会、合唱祭は実施する他の行事の中で代替する。

6_広報活動の在り方の見直し

2021年度の広報活動は、企画広報部を中心に効率的・効果的な広報戦略を立て、全教職員で対応する。

①オープンスクール

本校の魅力を直接伝えられる場であり、前日の周到な準備に時間を要することから、日曜日の開催とする。

②地域相談会, トワイライト説明会, 中学校, 塾対象説明会

一定の参加者があることから需要はあるため継続して実施する。その際、企画広報部員だけに負担かかからないよう、

全教職員で取り組む。トワイライト説明会は、個別ではなくミニ説明会的なものとする。

③小学校・中学校・塾訪問

本校への入学者出身中学校や通塾の傾向を分析し、訪問する学校、塾を厳選する。(訪問しない中学校・塾を設定する。)

④新聞広告, 駅看板, 情報誌広告, ホームページ等の広告

原則として新聞広告, 駅看板, 情報誌広告は行わない。

⑤その他

本校の情報をどこで、だれから入手しているかについて、オープンスクールなどを活用し、必ずアンケート調査を実施する。

また、WGから提案のあったその他の活動については、新たな取組として実施する方向で検討する。

7_人事評価制度の導入

適正な評価に基づき教師力を高め、組織として教育力を最大化することを目的として、本校独自の人事評価制度を2021年度から導入する。

[スケジュール]

①現状把握・制度設計 4月～7月

管理職・教職員インタビュー、人材ビジョン作成(目指す学校像・求める教師像)
制度設計(ポリシー策定, キャリアパス設計, 評価基準, 評価ルール, 評価帳票設計)

②導入準備 8月～9月

導入計画の策定(導入・運用スケジュール, 役割分担と運用体制)
評価制度ハンドブック作成、評価制度説明会実施、評価者研修実施

③評価制度運用開始(試行) 10月～

随時, 制度の見直し

④その他

給与への反映は行わない。(次のステップで検討) ※コアネット教育総合研究所の支援により実施